

築37年でも躯体は健全、母娘の同居リフォーム

神奈川県 1邸

■堅牢な躯体を活かして、リフォームを選択

「父が亡くなり、家を受け継いで母と同居することになったのですが、築37年と古いので、はじめは解体しようかと迷いました」と語る娘のIさん。しかし、ツーバイフォー住宅である実家の建物は調査の結果、基礎も躯体も問題ないことが確認されました。新築当時、お父様が「地震に強い家なんだ」と誇らしげに語っていた子供時代の記憶も蘇り、Iさんは安心してリフォームを決断できました。

■こだわりのデザインとバリアフリー配慮

I邸では全面リフォームとしながらも構造壁は動かさず、間仕切壁の移動で使い勝手を高める方法がとられました。Iさんの生活スペースとなる2階は、既存の部屋割りを活かしつつ、内装と設備の変更により雰囲気が一新しました。お母様が使う1階はLDKと洗面・トイレ、寝室が新設され、バリアフリー設計が施されました。窓と床下の断熱施工により、温熱面でのバリアフリーも実現。こだわりの住まいが叶った満足感と、実家に再び暮らすうれしさが両立したリフォームで「暮らしをいねいに楽しもうという気持ちが生まりました」とIさんは語ります。

リフォームのプロが語る

しっかりとした構造躯体に ツーバイフォーの可能性を 改めて実感

三井ホーム(株)
神奈川オーナーサポート部長
鈴木 孝治さん



I様邸は、約40年前に建てられたツーバイフォー住宅で内装は経年劣化していましたが、床下や小屋裏を調査

したところ、新築時から床下の湿気対策が行われていたことや長期にわたる外部塗装などの適切なメンテナンス工事により、構造躯体は驚くほどきれいな状態でした。自信をもってリフォーム工事をお勧めするとともに、改めてツーバイフォー工法のポテンシャルの高さを実感しました。

リフォームの数だけご家族の物語があります。「わが家の物語」をいねいにヒアリングすること、そしてお客様の想像の上をいく提案をすることが、感動のあるリフォームにつながると思っています。

1 F



拡張された共用のバスルーム。バリアフリーに配慮され、手すりやベンチ、浴室換気乾燥暖房機がついている。



屋根と外壁の再塗装が行われた外観。

階段脇にある納戸内にシューズクロークが新設され、廊下にはコートや小物類を収納するクロークが設けられた。外出の際に便利だけでなく、玄関まわりを常にすっきりと保つことができる。



2 F



ご両親が使われていた2階の部屋は、Iさんの寝室に生まれ変わった。内窓が新設され、断熱性も向上した。

内装が一新されたLDK。リビングには優しいグレーを基調とした2種類のアクセントクロス、キッチンにはクラシカルな壁面タイルや框デザインのキャビネットを用いて表情豊かに演出。また、ガラス入りドアで開放感がアップした。

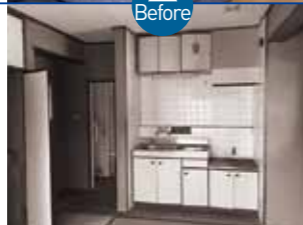


1階南側にお母様のLDKがつけられた。リビングスペースには二面に大きな窓があり、明るい。間仕切り壁の位置を変更してLDKの入り口周辺のスペースを広くし、隣接する寝室と洗面・トイレへの動線がスムーズになるようにリフォームされた。

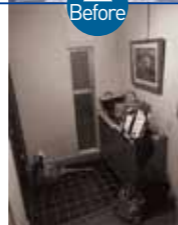
以前、子供室として使用されていた2つの部屋をワンルームにして、お母様の寝室にリフォームされた。入り口には開けやすく、敷居の段差が生じない吊りタイプの引き戸が設置されている。



After
Before



ミニキッチンがついていた和室



玄関



After
Before



リビング



2階のLDK



キッチン

DATA

リフォーム年	2016年
築年数	37年
規模	2階建て
リフォーム面積(建物全体)	100.09㎡ (30.27坪)
設計・施工	三井ホーム(株)